

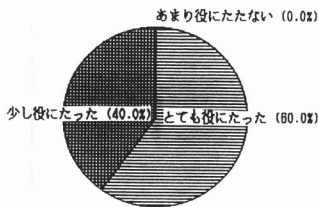
考えられる。このことから、相互評価の後に自己評価を行うことは、自己の表現活動のよさについての理解を深め、表現意欲の向上に効果があると考え。

② アンケート調査から

下記の調査結果や感想から、次のようなことが分かった。相互評価活動は、⑦自分の表現活動のよさを再発見でき、またそのきっかけになる④友だちの発表を真剣に聞く⑨自分の考えを再考できるなどの効果があることが分かった。(グラフ8)また、新しい自分の考えをつくることにも役立つことも分かった。(感想、グラフ9)

※(グラフ8)

「こんなとよかったよカード」は、よさを見つけるのに役立つか



※(グラフ9)

「こんなとよかったよカード」は、自分の新しい考えをつくるのに役立つか



グラフ9の主なわけ

- 自分より友だちの方がもっとよいところを見つけてくれたから。
- 頭を回転させ、友だちの発表を聞いた。
- 自分の考えをまとめられる。

<自己評価の感想>

10 友だちの発表を聴いて、ぼくは、わたしは、さよならな言葉があるんだね。未来をよりよいにするために、たくさん努力がとれているんだなと感心しました。

以上のことから、相互評価の後に自己評価を行うことは、自分のよさを成就感や満足感をもって自覚することにつながり、次の学習への表現意欲や「説得力」・「応用力」の向上に寄与できたのではないと思われる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 児童の表現活動の特性を把握し、それを生かす表現活動を組織することによって、「表現意欲」や「創造力、説得力」の向上に寄与することができる。特に、学習メディアを活用した表現方法を自分で選択することは、「表現意欲」向上の重要な要因の1

つとして働くことが分かった。この点で、「表現活動の特性の類型化」は、有効であった。

(2) 学習過程の中に「直接体験」を位置づけることは、具体的なイメージを伴った共感的な理解を促進し、表現内容の創造に効果的に働くことが分かった。
 (3) 「相互評価を行った後に自己評価を行うこと」は、自己の表現活動の特性やよさをより客観的に自覚できるとともに、相手の考えを受け入れ、自分なりの考えを創造することに寄与することができる。
 (4) 表現力の要素を明らかにし、「指導の全体構造」を作成することは、表現活動が展開するまでの指導・援助の方針が明確になり、各要素に応じた手だてを学習活動全体の中で、効果的に行うことができる。その際、知識の獲得による思考力や判断力の育成の場である、確かな課題把握に基づく課題追究の場や直接体験、表現活動の場を十分に保証することは、表現力育成の大切な条件の1つと考えられる。

2 今後の課題

- (1) 学年に応じたメディアリテラシーの在り方を、表現力との関連から探っていきたい。
- (2) 「他の考えを受け入れ、新しい考えをつくり上げる力」(応用力)を向上させるためには、今後、さらに継続的な評価活動を実践していく必要がある。
- (3) 直接体験への意欲を喚起するために、直接体験に発展する教材を系統的に準備する必要がある。
- (4) 児童の表現活動の特性の幅を広げるために、多様な表現活動の工夫を積み重ねていきたい。

最後に、この研究にご協力していただいた高畑睦雄先生(現行仁小学校長)、門田小学校長新井田滋雄先生、同校教諭白井秀樹先生に、厚くお礼を申し上げます。

<註・参考文献>

- 1) 初等教育資料No570
個性を生かす先生：(加藤幸次) 図書文化
学習スタイルを生かす先生：(辰野千寿) 図書文化
教育学実践研究No113：教育学研究協議会
自己評価：(安彦忠彦) 図書文化
新しい情報教育を創造する：(田中博之他共書)
メディアが開く新しい教育：(水越敏行) 学研
表現力・実践力を育てる：(家田哲夫) 東洋館出版
教職研修実践ハンドブックNo4：教育開発研究所
指導と評価 V038,140：日本教育評価研究会
初等教育資料：No556,570,617,619,622,624
個性を生かす教育メディア：教育学研究協議会
大和田南小研究紀要14集
社会科の授業評価：(水越敏行編) 明治図書